

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の方法で評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成29年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成29年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者：一尾二三夫
 作成日：平成30年4月30日
 サンプル数(評価数値の分布合計)：9
 (1). 教育理念・目標

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|---|-------------------------------------|------|---------|-------|-----|
| | 適切…5、ほぼ適切…4、どちらでもない…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | | |
| ①学校の理念・目的・育人人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ②学校における職業教育の特色は明確になっているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ④学校の理念・目的・育人人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

全体として「適切」～「ほぼ適切」と評価された。

昨年度に引き続き「④学校の理念・目的・育人人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の評価項目について改善に取り組んできたが、その結果「適切」の評価割合が増加した。引き続き学校から学生および保護者に向けた適切な情報発信について改善を進めていく。

(2)今後の改善方針

平成30年3月に全教職員を対象とした研修会を実施し、学校の教育理念、年間計画について確認した。

各担任による家庭へのごまめな電話連絡により、学校の教育方針や指導内容について保護者の理解を深めることができている。学生の就職活動に関する相談も含めて、今後もさらに継続して保護者との連携に努める。

学生の就職先である観光業界を取り巻く状況は変化し続けており、特にグローバル化教育については語学にとどまらず歴史、文化、宗教、経済情勢など多岐にわたる。専門科目の授業に加えて、毎日のホームルームを活用した担任教員による朝礼、校長による講演などの場を利用して、学生の意識啓蒙を継続する。

(3)特記事項

名古屋大原学園では年度単位の学園学校運営計画書を策定しており、その中で学園全体の教育目標として、

- ①早期大人化教育：精神的・経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成
 - ②学科の専門教育：資格試験や公務員試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成
- を掲げている。この教育目標に基づいて教職員・学生・クラスの3者の能力を工夫活用し、健全な国民としての学生を育てることを本校の教育方針として定めている。さらに各学科で目指す業界人像を定義し、学生から引き出す能力を明確にしている。また、これらの能力を養成するために、専門科目の教育と学園独自の検定試験制度とを組み合わせた指導を継続している。

本校の取り組み内容は学生だけでなく保護者や就職先企業、または入学希望者や高等学校に対しても学校案内書、ホームページなどを通して積極的に広報している。また、学校説明会、体験入学会、保護者説明会においても新時代に対応する学校の取り組み姿勢を説明内容に加えている。また、教職員向けには学校の取り組みに対する理解を深め意思統一を図るための研修を実施している。

全教職員は本計画書を所持しており、毎週月曜日に実施する教職員全体朝礼において教育目標の確認、および計画項目の進捗状況を確認している。これにより教育目標及び教育理念の教職員への浸透を図っている。なお、本計画書は学園長・理事長・校長により毎年度末に見直しが行われ、現在は平成30年度版に改訂されている。

なお、今回からさらに詳細な分析を行うため、自己点検・自己評価の方法を従来の4段階から5段階に変更した。

(2). 学校運営

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|---|---------|---------|------------|----------|-------|
| | 適切…5、 | ほぼ適切…4、 | どちらでもない…3、 | やや不適切…2、 | 不適切…1 |
| ①目的等に沿った運営方針が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④人事、給与に関する規程等は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

全体として「適切」～「ほぼ適切」と評価された。

「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」の評価項目について改善が見られた。これは、昨年度より新しい学生管理システムの運用が始まったためであり、学生の入学手続きから在学中の成績処理、学費納入などの総合的な管理が可能となった。今後もこのシステムを活用した一層の業務効率化を推進していく。

(2)今後の改善方針

新しい学生管理システムの運用が開始されたが、多岐にわたる詳細な機能を活用するため、教職員向けの勉強会や研修を実施していく予定である。

(3)特記事項

教育目標として掲げた①早期大人化教育、②学科の専門教育、およびカリキュラム改革計画に基づいた具体的な事業計画は平成30年度学園学校運営計画書の月次遂行項目として策定されている。また各項目の実行責任者と学園全体組織図が明示されており、学園長・理事長・校長・部長などの指示命令系統、および全体の組織運営、意思決定、報告連絡相談系統は明らかである。

学園理事会・評議員会とも適時適切に開催され、学校運営状況は随時報告されている。また議事録は適切に作成管理されている。学校職員に対しては人事給与に関する項目を含む「就業規則」が明文化されており、関係法令の改正に伴って適時改正を行っている。消防計画、学校安全計画は整備され、教職員の役割担当が明示されている。

具体的な教育活動の内容については学校案内書、学校ホームページを通して関係業界や地域社会、入学希望者等に向けて最新情報を発信している。学校財務情報、学校自己点検評価、学校関係者評価については文部科学省のガイドライン等に従って適切に公開している。

財務情報については「財産目録等の閲覧について」の規程を整備し、利害関係人が財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書の閲覧が出来るように情報公開の場を設けている。

(3). 教育活動

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|--|---------|---------|------------|----------|-------|
| | 適切…5、 | ほぼ適切…4、 | どちらでもない…3、 | やや不適切…2、 | 不適切…1 |
| ①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

全体として「適切」～「ほぼ適切」と評価された。

「⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか」および「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」の2つについては、教職員が継続的に取り組まなければならない項目である。変化が著しい業界を取り巻く環境に対応していく人材を育てるために、教職員には自身の指導力向上と教務範囲の拡大が必要不可欠である。

(2) 今後の改善方策

毎月1回の定期的な教職員研修会を実施し、業界を取り巻く最新情報、業界が学校に対して求める人材像、必要なスキルなどを情報交換している。また、同時に社会情勢、時事問題に精通するための勉強会も継続している。さらに専門科目以外の教務知識を拡大するため、部署単位および個人単位で年間計画を立て新しい資格取得に向けて取り組んでいる。これらの活動を通して学生に対し幅広い指導ができる体制づくりを目指している。

(3) 特記事項

情報端末を活用した新たな営業手法やプレゼンテーション企画などを提案できるビジネス能力養成、また環境変化に対応できる柔軟なカリキュラム編成を目指し、授業科目として「企画プレゼン」を設定した。各業界が直面している問題点の把握、解決への企画作成、プレゼンテーションに取り組んでいる。業界関係者に向けての発表会を実施し、厳しい指摘を受けながら更なる企画力向上を目指している。

学園長主催による定期的な人間学読書会や自己研鑽研修制度を通して教職員としての品格保持を推進している取り組みが学校関係者評価委員会から評価されている。今後も校長が先頭に立って積極的に研修制度に参加する姿勢を示す。

教育理念・教育目標に基づいて教育課程を編成している。これは学則に「教育課程表」として明示されており、合わせて修業年限や授業時間数が規程されている。カリキュラムや使用教材は毎年見直しを実施し、シラバス(授業計画表)に基づいた授業を行っている。また校長による授業聴講、教員同士による相互授業聴講を毎年1回実施しており、カリキュラムに沿った授業が行われているかを点検している。

資格試験直前期には補講の実施により合格率向上を図っており、一時的に能力別クラス編成を実施して学生の理解度レベルに応じた対応を工夫している。公的な資格試験以外に学校としての中間試験と期末試験を実施しており、成績評価、進級・卒業に関しては厳密に審査判定している。

ホテル・ブライダル関連の企業団体等との連携により、実践的な職業教育を実践している。業界における実務担当者が担当する校内授業や、学生が企業現場に出向いて実際の業務を体験する授業などをカリキュラムに組み込んでいる。

全学生にタブレット型端末機を配付し活用推進を図っている。従来型の教室授業だけでなく、タブレット端末を活用したインタラクティブな授業を織り込み、学生の理解度向上に繋げる取り組みを続けている。また学生手帳の活用により自己管理能力を高め、授業時間以外での復習時間確保や自己到達度管理などを推進している。これらの相乗効果により合格率の向上、不合格者の減少を図っている。

(4). 学修成果

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|---------------------------------------|---------|---------|------------|----------|-------|
| | 適切…5、 | ほぼ適切…4、 | どちらでもない…3、 | やや不適切…2、 | 不適切…1 |
| ①就職率の向上が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ②資格取得率の向上が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ③退学率の低減が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |

(1) 課題

全体としては「適切」～「ほぼ適切」と評価された。

「③退学率の低減が図られているか」の評価項目は、教職員と学生・保護者のコミュニケーションや連携が上手く図られており改善されている。
また、「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」および「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」の項目についても、卒業生や卒業生が務める企業との連携が強化されつつあり、在校生の就職指導にも良い影響が出ている。

(2) 今後の改善方策

開校から四半世紀が経過し、各業界において活躍している卒業生も多数いて、彼らの存在が在校生にとっては大きな目標であり精神的な支えになっている。例年開催している「OB講演会」は、在校生の就職活動への意識啓蒙につながっている。

また、卒業生の仕事への取り組み姿勢が在校生への求人につながるケースも多く、今後も卒業生や企業との連携を強化しつつ、学校に求められている教育内容の改善に取り組んでいく。

(3) 特記事項

クラス担任制度を採用しており、担任と学生の信頼関係に基づき学習相談、進路相談、就職相談が行われている。また校長や部長も担任をサポートし、学校全体で指導体制を構築している。これにより合格率就職率向上と退学率低減を図っている。

就職活動に際しては就職サポート室担当者と担任が連携し学生の進路相談やカウンセリングを行っている。

学校に寄せられる求人情報は就職サポート室が一元管理している。求人情報はファイリングした上で就職サポート室にて自由に閲覧できるほか、企業データベースに登録されるので学生はいつでも学内ネットワーク上で検索閲覧可能である。

卒業生から得られる最新業界情報に基づいて授業内容を調整し、ビジネス最前線に則した教育内容を保持するよう努めている。

学生との相談内容(カウンセリング内容)を記録に残し、担任、学科長、校長が情報を共有することにより学生への対応を手厚くする。これにより対応が難しい学生を担任一人で抱え込むことを防いでいる。

(5). 学生支援

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|--|---------|---------|------------|----------|-------|
| | 適切…5、 | ほぼ適切…4、 | どちらでもない…3、 | やや不適切…2、 | 不適切…1 |
| ①進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ②学生相談に関する体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑥学生の生活環境への支援は行われているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑦保護者と適切に連携しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑧卒業生への支援体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |

(1) 課題

全体としては「適切」～「ほぼ適切」と評価された。

「⑦保護者と適切に連携しているか」という評価項目に対して、学校の教育理念や教育内容について保護者の理解は得られている。今後は近年大きく変化している企業の採用方法や業界での働き方など、保護者に向けて就職に関する情報発信を強化していかなければならない。

(2) 今後の改善方策

常々教職員と学生、保護者との連携を図っており、それが学生の学習意欲向上や就職実績の向上に効果を上げてきた。しかし、就職指導については保護者世代の就職環境から大きく変化しているため、企業の採用活動の体制、企業での働き方、その後のキャリア形成に至るまで、事前に十分な説明をして理解を得ておく必要がある。今後はキャリアサポートの職員や企業と協力の上、保護者に向けた学内企業セミナーなどを企画して理解を深める働きかけをしたい。

(3) 特記事項

「学生支援」全般に関しては、下記の学園の取り組みについて学校関係者評価委員会においても高い評価を受けており、今後も継続する予定である。

「クラス担任制による学校運営」: 学生・クラス・教師の三者の関係を大切にすることにより、良好な学習環境や信頼関係が形成されている。

「入社準備プログラム」: 就職先が内定した学生に対して2年次9月以降に、職種別クラスにクラス編成を行い入社に向けたビジネスマナーを中心とする実務教育を施している。

「充実したクラブ活動」: 専門学校では珍しい充実したクラブ活動(野球部、サッカー部、バスケットボール部、卓球部、剣道部、バレーボール部、吹奏楽団等)が存在している。部活動に参加している学生は多く、通常のクラスを離れ、学年や学科を越えた交流の場となっている。

(6). 教育環境

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|---|---------|--------|-----------|---------|-------|
| | 適切…5 | ほぼ適切…4 | どちらでもない…3 | やや不適切…2 | 不適切…1 |
| ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ③防災に対する体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

全体としては「適切」～「ほぼ適切」と評価された。

魅力ある学校づくりのためにはカリキュラムの充実が不可欠である。従来の授業内容をさらに充実させるとともに、実務授業および就職授業については、業界や地方自治体との連携を一層進めたい。

昨年度まで継続していた海外研修旅行は、海外治安情勢の悪化により中止することとした。しかし、国内においても海外研修と同等の効果が得られる教育システムを開発して、学生の海外行動力を養成する必要がある。

(2)今後の改善方策

継続している日本語学校に在籍する外国人留学生との交流プログラムを充実させる。双方の学生にとって教育効果の高い授業内容を検討し、語学のみでの学習にとどまらず、歴史、文化、宗教、生活習慣など幅広い相互理解の場を提供していく。

海外出張や海外勤務の現場で必要とされる英会話表現について、ロールプレイ型の学習スタイルおよび検定試験を開発する。国内においてもグローバル化への興味や語学の必要性に気付く学習環境を整備していく。

(3)特記事項

「教育環境」全般については、下記の項目について改善が進んでいる。

「ウェディング実習スペースの整備」: 挙式の運営やドレスのフィッティングなどブライダル業界における実務のトレーニングを行うスペースが整備された。従来のホテルや結婚式場など提携先企業の施設設備を利用した実地研修と合わせて教育効果の向上を目指す。

「海外旅行支援制度」: 学生の自主的な海外旅行を支援する制度であり、条件を満たす海外旅行には旅行代金の一部を学園が負担する。制度の利用を通して、海外との取引がある企業や海外の企業での勤務を目指すなど、広い視野を持った学生の育成に役立っている。

「防災に対する体制」: 消防計画、学校安全計画は整備されている。また、新たに1名が防火管理者の講習を受講している。

(7). 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|------------------------------|-------------------------------------|------|---------|-------|-----|
| | 適切…5、ほぼ適切…4、どちらでもない…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | | |
| ①学生募集活動は、適正に行われているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③学納金は妥当なものとなっているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

全体としては「適切」～「ほぼ適切」と評価された。
現状で入学者数は横ばい傾向であり、より多くの入学者獲得のため今後さらなる工夫が必要である。

(2)今後の改善方策

実業界と提携したカリキュラムにより、学生の就職意識が高まり、優良企業への早期内定を実現している点を告知する。
また、夏休みのウェディングやホテルのイベントも企業と連携して開催し、そこで働く卒業生や業界関係者からも、業界が求める人材を大原学園が育成している点を告知していく。

18才人口が減少傾向にある中で、入学者数を確保するためには留学生の募集にも力を入れていかなければならない。日本語学校への訪問など留学生獲得に向けた広報活動を進める。

現在、国際ビジネス科およびホテル・ブライダル科は「職業実践専門課程」に認定されている。また、ホテル・ブライダル科は「専門実践教育訓練給付金」の支給対象学科として指定されている。これらは適正な教育を施している専門学校の証明であり、今後の学生受け入れや募集活動でも積極的に告知していく。

(3)特記事項

業界と連携したイベント
ブライダル業界 ウェディングセミナー
ホテル業界 ホテルサマーフェスティバル

(8). 財務

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|---------------------------|-------------------------------------|------|---------|-------|-----|
| | 適切…5、ほぼ適切…4、どちらでもない…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | | |
| ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③財務について会計監査が適切に行われているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④財務情報公開の体制整備はできているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

全ての評価項目において「適切」と評価された。

(2)今後の改善方策

大きな課題は見受けられないが、学園経理・財務室と連携し引き続き適切に対応する。

(3)特記事項

学園の財務状況については、学園のホームページ上において公開している。

(9). 法令等の遵守

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|--------------------------------|---------|---------|------------|----------|-------|
| | 適切…5、 | ほぼ適切…4、 | どちらでもない…3、 | やや不適切…2、 | 不適切…1 |
| ①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④自己評価結果を公開しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

評価項目はすべて「適切」と評価された。

今後も法令を遵守し、学校法人立の専修学校として適正な教育活動を行う。

(2)今後の改善方策

あらゆる場面において学校法人名古屋大原学園の教職員としての誇りと自覚を持ち、教職員一人ひとりが法令遵守に努める。

(3)特記事項

毎年度、全教職員を対象に自己点検・自己評価を実施し、その結果を学校関係者評価委員会に報告している。自己点検・自己評価の結果および委員会からの評価や提言は学園ホームページ上で公開している。

(10). 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|--|-------------------------------------|------|---------|-------|-----|
| | 適切…5、ほぼ適切…4、どちらでもない…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | | |
| ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |

(1)課題

全体としては「適切」～「ほぼ適切」と評価された。

今年度も引き続き「②学生のボランティア活動」を通して、学生の社会の形成者意識を養成する活動を継続する。

(2)今後の改善方策

学生が就職していく観光業界にとどまらず、幅広い分野のボランティア活動の情報を収集し、学生が参加できる機会を提供する。

また、企画力・営業力を養成する授業で、地元の企業向けに新しいビジネスモデルを企画・提案するなど、教育成果を社会や地域に還元するような仕組みづくりを研究する。

(3)特記事項

社会人や大学生に対して資格取得講座や、各分野の専門家を招いて開催する「実務家講演会」、名古屋大原学園学園長主催による「人間学読書会」、地元商店街と連携したボランティア活動などを通年で展開している。

(11). 国際交流

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | | |
|--------------------------------------|---------|--------|-----------|---------|-------|
| | 適切…5 | ほぼ適切…4 | どちらでもない…3 | やや不適切…2 | 不適切…1 |
| ①留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| ②留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| ③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| ④学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 適切 | ほぼ適切 | どちらでもない | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 4 | 0 | 0 | 0 |

①課題

全体としては「適切」～「ほぼ適切」と評価された。

しかしながら、「留学生の受け入れ」に関しては、近年加速している企業のグローバル化に対応するためにも適切な対策が必要である。

②今後の改善方策

当校で実施している国家資格の受験対策授業を理解するためには、高度な日本語読解能力(日本語能力試験N2以上)が必要である。日本語学校で学ぶ留学生の中から優秀な学生の入学を促したい。

日本語学校との交流会は、異文化相互理解や語学学習の必要性に気付くきっかけになっており、今後も継続する予定である。また、交流授業の内容については、双方の学生にとって教育効果の高い内容となるよう、引き続き担当者間で入念な検討を重ねていく。

③特記事項

交流授業については年間4回の実施を予定しており、コミュニケーション・ゲームや卓球大会のような交流イベントから、日本文化についてのプレゼンテーションやスピーチコンテストなど高い語学水準が求められるものまで、段階的に進める予定である。